平成 21 年 9 月 12 日

第 2 回 FD シンポジウム

入学前教育・初年次教育に関する教員の意識（体育学部）

田原淳子

【調査の概要】

調査対象：体育学部専任教員全員（60 人）

調査方法：アンケート（用紙およびメールに添付したワードファイル）を教員に配布し、教授会にて学部長および学部の FD 委員長より調査への協力を依頼。回収方法は、調査者のメールボックスまたはメールにファイル添付で返送。

調査期間：平成 21 年 7 月 30 日～8 月 17 日

回 収 数：24（回収率 40.0%）

【質問と回答】

1 近年の大学入学者の質の多様化から、入学前教育や初年次教育の必要性が言われています。体育学部学生の状況から、入学前教育または初年次教育は必要だと思いますか。当てはまるもの１つに○をつけてください。

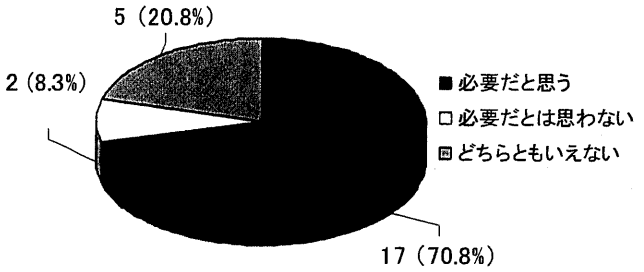

図1. 入学前教育・初年時教育の必要性

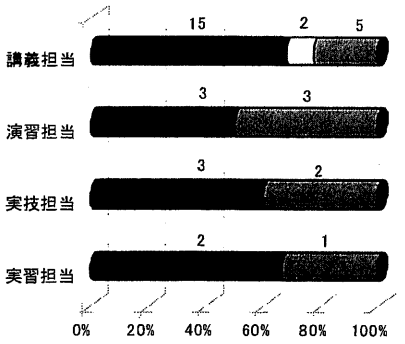

図2. 担当科目別の意識（担当は重複あり）

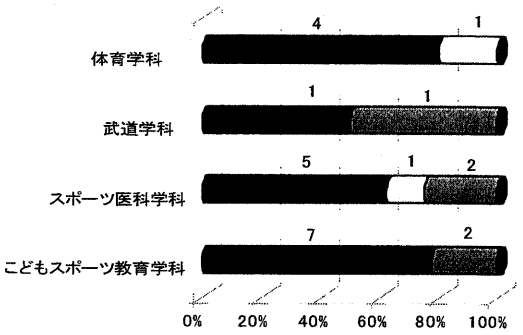

図3. 学科別の意識

2 上で回答した理由

（注）回答者の所属学科：＜体＞体育学科、＜武＞武道学科、＜医＞スポーツ医科学科、＜こ＞こどもスポーツ教育学科

①<u>必要だと思う理由</u>

◆大学・学科への理解

・＜武＞初年次教育は特に必要と思われる。学力の問題以上に道徳教育（本学の建学の精神等）を充実させる必要を感じる。

・＜体＞体育学部を選んだことに、自信と誇りを持ってもらいたいから

・＜医＞＜こ＞学科の特色を十分理解しないままに入学してきている学生が少なくない。

・＜こ＞学科毎に実施すべき（スポ医は特に必要）。
・＜医＞将来、何になりたいか、ビジョンが明確になっていない（何をしたいか）。大学にきて何をするのか目標を設定する必要性を感じる。
・＜医＞学年が上がっても勉強に向かう姿勢を認められない。これは、初年次に、大学とは学問をすべき所であるという刷り込みが足りないためと思われる。
・＜体＞大学での目標設定が曖昧であり、さらに4年間の学習手順（継続）を正しくセットできないでいる学生が多くなっている。
・＜こ＞目的意識を明確にする→キャリア教育の大学生版が必要。
・＜こ＞大学での学び方、自己教育力などを身につけないと授業をこなしていけない。
・＜こ＞高校までの教育、学習とは異なる部分もあるので「大学での学び方」といった基礎的なものをどこかで実施する必要がある。

◆学生の多様化・学力の問題（基礎知識、国語力）
・＜こ＞学生の将来の進路が多様化しているため
・＜こ＞学生の学力と学習意欲の差が目立つ
・＜体＞高校時代、普通科だけでなく各種多様な学科枠者の集団だから学力の低い入学生の多い現状に対応する必要がある。
・＜体＞体育学部には競技力で入学している者が多い現状、この学生への特別なガイダンス、補習授業の必要がある。
・＜体＞専門的教育の指導に入る前に基礎的な教育の必要性があると感じる。
・＜武＞体育学は学際的要素が大きいため、基礎生物学、有機化学の一部の習得が必要と思う。スポーツ医学で、基礎的な用語を2年生で理解していない学生が多い。
・＜医＞入試科目に生物、化学など理系の試験が必修に入っていないため、新入学は理系の基礎的なことが理解されていない（スポーツ医科学科）。
・＜医＞＜武＞高校ですでに学習してきているであろうと思われる項目の欠如が疑われる場合もある。
・＜こ＞国語の力（語彙、作文力、話す力、レポート作成）が非常に力不足と感じるため

◆マナーなど
・＜こ＞ルール（マナーの低下）
・＜武＞「授業中に話さない」「携帯をいじらない」「お菓子を食べない」「飲み物の容器を机に置かない」「iPODを聴かない」などおよそ当たり前のことができていない。講義中に必ず一回はこのようなことで注意をしている。しかし、このようなことは幼稚すぎて、議論することすら空しい。
・＜武＞エレベータで、教員が降りる前に乗ってくる学生を見て唖然とする。また、教員が目の前にいるにもかかわらず、エレベータ内で携帯で会話したり、2201,2301教室の外のベンチに寝ているのを見ると、この学生が社会人としてやっていけるのかとても心配になる。

②<u>必要だとは思わない理由</u>
・＜医＞本来は高等学校教育の問題と考える。
・＜医＞講義の中で説明を加えながら（補習的な部分）進行すればよいかと思っている。
・＜体＞体育学部において一般にいう学力が何を意味するのかわからないが、話を聞くに授業ができないほど学生間の私語が多いような学部では、加減乗除も出来ぬ学生ばかりとか、このような学生に補習をしても意味がない。要するに、入学者の質の問題は学力にあるのではなく、もっと違う所にあるのではないか。

③どちらともいえない理由

・＜武＞科目によって異なるため。

・＜医＞入学試験の多様化に伴って、様々な学生が入学してきている。したがって、学力の低い学生、意欲のない学生など、それぞれの問題点が異なるため、全てのニーズにあわせた教育を実施するのは困難だと思ったから。

・＜医＞スポーツ医科学科に関しては、学生が十分やる気を持っていれば今までの教育体系で十分であるはずと考えてはいるが、現実には大学に来ている自覚のない学生が多くなってきている気はする。

・＜こ＞授業の受け方などは、オリエンテーション時に指導し、学部もしくは学科の教員が共通認識をもって授業に臨むことが望ましい。

・＜こ＞前任校では、少人数のゼミ形式で初年次教育を実施していた。内容は、国語教育をベースにしたものであったが、共通のテキストを指定してもそれを使用しない教員がいたり、教員間にかなり温度差がみられ、学生への教育の質の保証という面で疑問が残った。

3　どのような内容の教育を実施すべきだと考えているか。

◆大学・学科への理解

・＜体＞学部の教育理念（「国士舘はこんな大学なんだ」を理解させる）

・＜体＞大学の歴史、建学の歴史を知ることにより、愛校心を培う。

・＜体＞舘歌・応援歌・寮歌等の指導。各クラブの公式戦等の応援を行い、帰属意識を高める。

・＜こ＞オリエンテーションなどにおいて各科目の趣旨などについて十分な説明を実施する。

・＜医＞卒業までに取得できる資格とその方策についてのガイダンス

・＜医＞＜体＞授業の受け方・取り組み姿勢など

・＜こ＞進路別にクラス編成する。

・＜こ＞少人数で学科の目的・目標に合った教育

・＜こ＞体育学科・武道学科（推薦・AO 等については春期休み）

・＜体＞大学生としての常識、基礎知識が十分でない学生が多いことから、1 年次に要点を明確に理解させる教育を実施する。

◆学力の問題（基礎知識、国語力）

・＜こ＞学習することの意義と学習方法、授業方法を理解させ、学士力を高める。

・＜こ＞授業の受け方、レポートの書き方などを組織的に実施する必要がある。

・＜医＞＜こ＞読書、ディベート、プレゼンテーション、レポート、論文の書き方、語彙力学習等

・＜体＞基礎知識習得のための座学教育

・＜医＞1 年次に、生物、化学などの理系の基礎的なことを集中講義で行う。

◆マナー・人間性

・＜医＞全体の基礎的実習や団体行動の指導

・＜武＞学力以上に人間性を高める教育が必要

・＜武＞学部で講義中にしていけないことを統一する。

◆コミュニケーション

・＜こ＞少人数制・談話方式

◆その他

・＜医＞どのような教育をするかという以前にそれぞれの学科で基本的な項目、知っていなければならない項目がどれくらい頭に入っているかを入学直後に評価してでないと対策は立てられないと思う。

4 自身の授業の中で、すでに初年次教育に相当する内容を実践している場合の具体的な内容

◆大学・学科・進路への理解

・＜こ＞3月（入学前）の競技力向上の合宿に参加させる。

・＜こ＞自主ゼミを立ち上げ、教職に対する意識を高めるようにした（こどもスポーツ教育学科の町田校舎として）。

・＜体＞教師資格取得の目的意識の低さに悩むことが多い。普通授業の中で毎度話をする必要がある。

・＜こ＞1年生春期の授業では、大学生活に慣れていくため、生活の変化に配慮した話題提供を心掛けている。

◆学力の問題（基礎知識、国語力）

・＜医＞内科学の講義前に、各臓器の位置、機能について解説している。

・＜医＞救急救命士国家試験の出題範囲である「救急救命士標準テキスト」を入学直後より読ませている。

・＜医＞スポーツ医科では以前のカリキュラムではいわゆる物理、化学等の補講的な講義があったが、受講してもらいたい学生がとらず、得意な学生がとっていた過去はあったと思う。現在もコマは少なくなったが数理統計学で基本的な学習はさせている。

・＜医＞英語の語彙力が弱いので病名や病状に英単語をつけて身近になるようにしている。

・＜武＞高校ですでに習得していると思われることでも用語の解説を行ったり、言葉の定義を明示してから、講義の核心に触れるようにしている。

・＜体＞大学ではアスリートとしても人間的にも最も大きな成長ができる。しかしながら、それは基盤となるトレーニング理論を熟知していることが条件である。そこで「トレーニングにおける心構え」として、高校にプラスする教育をしている。

・＜こ＞小レポートを書かせると、やはり基礎学力である国語の力に学生間の大きな差を感じている。読む、書くという時間はできるだけとりたいと思っている。

◆マナー・人間性

・＜武＞部活動において訓育を時に実践している。

・＜体＞「教員の話を聞くように」「質問をするように」の2点が最初に必要な条件かと思う。最初にこの条件を強調しているが、体育学部に入ってくる学生は、他学部の学生とは違って話を聞いてくれる学生が多いと思う。

◆コミュニケーション

・＜体＞野外活動部では、「新入生歓迎会」の名目で宿泊合宿をおこない、アイスブレーキングを取り入れ、仲間づくり活動を中心におこなっている。

【まとめ】

調査結果から、回答者の約 70%の教員が入学前教育・初年時教育の必要性を感じていた。この種の教育の実施に対する賛否にかかわらず、教員の共通した認識として、入学生の大学や学科に対する理解の促進の重要性、学生の多様化と学力不足・マナーの低下が指摘された。これらの問題に対しては、教員が個別に各自の授業や活動を通して、学生に対する教育を工夫している様子が伺えた。また、一部の学科・科目では、基礎知識に関する問題が顕著であるなどの特徴もみられた。以上のことから、学部共通の課題と学科別の課題を精査した上で、入学前教育・初年時教育の具体的な内容や方法について、開講前のオリエンテーションのあり方を含め、学部と学科の双方から組織的に問題解決に向けた検討を進める時期にきているといえる。